

事業所名

子ども発達支援てだのふあ2

支援プログラム

作成日

2024年

12月

20日

法人（事業所）理念	障害のある人もない人も共に豊かに暮らせる共生社会の実現を目指します						
支援方針	児童発達支援～放課後等デイサービスの長期間にわたる支援を、スモールステップで継続的に行います。専門職員による一人ひとりの評価に基づく、設定活動と環境整備を職員全員で共有し、支援していきます。将来の目標に向かって家族、幼稚園・保育園、学校、相談支援員と連携して、社会で生きる力を習得出来るように一緒に考えていきます。						
営業時間	9時	0分から	18時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	食事動作（主に箸の持ち方の支援）、持ち物の整理整頓など生活していくために必要な動作が習得できるよう、スモールステップで支援します。食具の使用についてはご本人の発達段階に合わせてすすめていきます。（スプーンとフォークは移行持ちまで段階的に支援、お箸は支えて持つ形が整ってから）誤飲、誤嚥がないよう摂食の際は必ずそばで見守ります。					
	運動・感覚	目と手の協応動作を目標とした活動を机上で行います。着席して注目し、楽しく手指の使い方が習得できるよう活動を設定します。（塗り絵、折り紙等）身体を動かす活動では、本人の身体機能に合わせて参加できるよう配慮します。（体操、サーキット、ボーリングゲーム等）					
	認知・行動	身支度を同じ手順で繰り返し行いながら、動作が習得できるよう支援します。ランドセルやリュックなど自分の持ち物をロッカーに置く、連絡帳を所定の箱に入れる、体温を測るなど決まった場所に準備することで、ご自身で取り組めるよう環境を整えます。一人で行える箇所は見守り、支援が必要な部分のみを細やかに評価し介助することで、継続して出来ていくことが増えるよう支援します。					
	言語コミュニケーション	「いつ」「どこで」「どうした」の状況説明ができるようになることを目標にやりとりを行います。発話が困難な場合は、「はい」「いいえ」の反応や表現を見逃さないよう受け止めます。（行動、視線、姿勢、表情などから伝わってくるもの）また、ご本人の興味や関心のある事柄について一緒に考えたり、取り組みながらコミュニケーションを図ります。					
	人間関係社会性	本人の好きなもの、興味関心のある事柄を通じて、活動への参加を促します。同年代のお子さんや職員と一緒に活動することで「やってみたい」「楽しい」経験を積み重ねていけるよう、細やかに教具や玩具を準備します。順番やルール理解を目標としたアナログゲームや体操などの活動を提供します。					
家族支援	保護者の方にご家庭でのお子さんの様子についてお聞きしながら、（身支度、排せつ、食事、外出時など）生活の中で必要な支援やコミュニケーションの回り方について連携します。必要に応じて懇談を行います。	移行支援	学校の先生方に事業所での様子を見学していただき、それぞれの場所での評価と支援方針について意見交換を行い、連携を図ります。（トイレトレーニングや課題の内容について）				
地域支援・地域連携	医療機関、相談支援事業所、特別支援学校等へ療育中の支援方法、活動内容、評価について説明を行い、将来に向け必要な取り組みについて連携します。	職員の質の向上	毎日の支援の様子を動画で振り返る事で、職員の支援の内容を視える化して、質の向上につなげる。				
主な行事等	長期休暇中にプール活動（衣服の着脱の訓練）を行います、感染症対策に対応しながらの事業所外の活動を行います。						